

「話すこと・聞くこと」指導の系統性を考える（新学習指導要領）

{ } の中には { 第1学年及び第2学年
第3学年及び第4学年
第5学年及び第6学年 } となっている。

1,2年生では年間35時間程度
3,4年生では年間30時間程度
5,6年生では年間25時間程度を配当すること。
音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めること

1 目標

{ 相手に
相手や目的に
目的や意図に } 応じ、 { 身近なこと
調べたことなど
考えたことや伝えたいことなど } について、 { 事柄の順序を考えながら
筋道を立てて
的確に } 話す能力、 { 大事なことを落とさないように
話の中心に気をつけて
相手の意図をつかみながら } 聞く能力、 { 話題に沿って
進行に沿って
計画的に } 話し合う能力を身に付けさせるとともに、
{ 進んで
工夫しながら
適切に } 話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

2 内容

話題や取材の能力

ア { 身近なことや経験したことなど
関心のあることなど
考えたことや伝えたいことなど } から話題を決め、 { 必要な事柄を思い出すこと
必要な事柄について調べ、要点をメモすること
収集した知識や情報を関係付けること }

構成や内容、言葉遣いに関する能力

イ { 相手に
相手や目的に
目的や意図に } 応じ、 { 話す事柄を順序立て、
理由や事例などを挙げながら筋道を立て、
事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、 } { 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気をつけて
丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで
場に応じた適切な言葉遣いで } 話すこと

音声に関する能力

ウ { 姿勢や口形、声の大きさや速さなどに注意して、はっきりとした発音で
相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に注意したりして
共通語と方言の違いを理解し、また、必要に応じて共通語で } 話すこと

聞く能力

エ { 大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って } (聞くこと) { 聞き、 } { 質問したり感想を述べたりすること
自分の考えと比べるなどして考えをまとめること }

話し合う能力

オ { 互いの話を集中して聞き、
互いの考えの共通点や相違点を考え、
互いの立場や意図をはっきりさせながら、 } { 司会や提案などの役割を果たしながら、 } { 話題に沿って
進行に沿って
計画的に } 話し合うこと

相手、目的、意図に応じるとは、

相手
既知の相手 未知の相手
少人数 多人数

目的
目的によって変わる表現様式に注意
(自分のことを知らせたい、調べたことを発表したい、学校のイベントについて広く伝えたいなど)

意図
話し手の意図と聞き手の意図
(主張が明確に伝わるように)
・理由や事例を挙げる
・説明に必要な文言や数値の引用
・図解
・重要語句の定義づけ などの工夫

「書くこと」指導の系統性を考える（新学習指導要領）

{ } の中は { 第1学年及び第2学年
第3学年及び第4学年
第5学年及び第6学年 } となっている。

1,2年生では年間100時間程度
3,4年生では年間85時間程度
5,6年生では年間55時間程度を配当すること
実際に文章を書く活動をなるべく多くすること

1 目標

{ 目的に、
目的や意図に } 応じ { 経験したことや想像したことなどについて、
調べたことが分かるように、
考えたことなどを } { 順序を整理し、簡単な構成を考えて
段落相互の関係などに注意して
文章全体の構成の効果を考えて } 文章を書く能力を身に付けさせるとともに、 { 文や文章を進んで書こうとする
工夫しながら書こうとする
文章を適切に書こうとする } 態度を育てる。

2 内容

課題設定や取材に関する能力

{ 経験したことや想像したことなどから
関心のあることなどから
考えたことなどから } 書くことを決め、 { 相手や目的に応じて、
目的や意図に応じて、 } { 書こうとする題材に必要な事柄を集めること
書く上で必要な事柄を調べること
書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること }

なぜ1,2年生において相手意識がないのか？
・直接相手と対面しないため、相手に応じて書くことは大変高度なため、

文の構成についての能力

{ 文章全体における段落の役割を理解し } { 自分の考えが明確になるように、
自分の考えが明確になるように
自分の考えを明確に表現するため、 } { 事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること
段落相互の関係などに注意して文章を構成すること
文章全体の構成の効果を考えること }

記述に関する能力

{ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、
書こうとするものの中心を明確にし、
事実と感想、意見などを区別するとともに、 } { 目的や必要に応じて
目的や意図に応じて } { つながりのある文や文章を書くこと
理由や事例を挙げて書くこと
簡単に書いたり詳しく書いたりすること }

3,4年生以上は工夫しながら書こうとする態度を育てることが求められている。

記述に関する能力

{ 文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと
引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと }

推敲に関する能力

{ 文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに気付き、正すこと
文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること
表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること }

5,6年生は表記上の間違いにとどまらず、文章を自己評価し、よりよいものにしていくことが求められている。その際、観点を明らかに。（観点...指導事項+目的や意図、表現様式）

交流に関する能力

書いたものを { 読み合い、
発表し合い、
発表し合い、 } { よいところを見つけて
書き手の考えの明確さなどについて
表現の仕方に注目して } { 感想を伝え合うこと
意見を述べ合うこと
助言し合うこと }

「読むこと」指導の系統性を考える（新学習指導要領）

{ } の中は { 第1学年及び第2学年
第3学年及び第4学年
第5学年及び第6学年 } となっている。

読書意欲を高め、日常生活での読書活動を活発に行うために
他の教科における読書の指導との関連を考えて
学校図書館における指導との関連を考えて
読む図書は、人間形成に資するよう配慮して選定

1 目標

{ ~
目的に
目的に } 応じ、 { 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、
内容の中心をとらえさせたり段落相互の関係を考えたりしながら
内容や要旨をとらえながら } 読む能力を身に付けさせるとともに { 想像を広げたりしながら楽しんで読書しようとする
幅広く読書しようとする
読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする } 態度を育てる。

2 内容

音読に関する能力

{ 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて
内容の中心や場面の様子がよく分かるように
自分の思いや考えが伝わるように } 音読すること
(音読や朗読をすること)

効果的な読み方に関する能力

(高のみ) 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること

説明的な文章の解釈に関する能力

{ ~
目的に応じて
目的に応じて } { 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら
中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、
文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、 } { 内容の大体を読むこと
文章を読むこと
自分の考えを明確にしながら読んだりすること }

文学的文章の解釈に関する能力

{ 場面の様子について
場面の移り変わりに注意しながら、
~ } { 登場人物の行動を中心に
登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、
登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、 } { 想像を広げながら読むこと
叙述を基に想像して読むこと
優れた叙述について自分の考えをまとめること }

自分の考えの記述に関する能力

{ ~
目的や必要に応じて、 } { 文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと
文章の要点や細かい点に注意しながら読み、 } { ~
文章などを引用したり要約したりすること }

交流に関する能力

{ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、
文章を読んで考えたことを
本や文章を読んで考えたことを発表し合い、 } { 発表し合うこと
発表し合い、 } { 一人一人の感じ方について違いがあることに気付くこと
自分の考えを広げたり深めたりすること }

読書課題に関する能力

{ 楽しんだり知識を得たりするために、
目的に応じて、
目的に応じて、 } { 本や文章を選んで
いろいろな本や文章を選んで
複数の本や文章などを選んで比べて } 読むこと

PISA 型読解力のプロセスを内包
・情報の取り出し 解釈 熟考・評価

・考えや意見を持つための学習

・表現の効果を考える学習

・様々なテキストを読む学習

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する			
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
伝統的な言語文化	(ア) 昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること	(ア) 易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること (イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと	(ア) 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること (イ) 古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること
言葉の働きや特徴	(ア) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと (イ) 音節と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くこと (ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと	(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと (イ) 漢字と仮名を用いた表記などに興味をもつこと	(ア) 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと (イ) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くこと
表記	(エ) 長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」及び「を」を文の中で正しく使うこと (オ) 句読点の打ち方や、かぎ（「」）の使い方を理解して文章の中で使うこと	(ウ) 送り仮名に注意して書き、また、活用についての意識をもつこと (エ) 句読点を適切に打ち、また、段落の始め、会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書くこと	(ウ) 送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと
語句		(オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること (カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること	(エ) 語句の構成、変化などについての理解を深め、また、語句の由来などに関心をもつこと (オ) 文章の中での語句と語句との関係を理解すること (カ) 語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心をもつこと
文や文章の構成	(カ) 文の中における主語と述語との関係に注意すること	(キ) 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと (ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと	(キ) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること
言葉遣い	(キ) 敬体で書かれた文章に慣れること		(ク) 日常よく使われる敬語の使い方に慣れること
表現			(ケ) 比喻や反復などの表現の工夫に気付くこと
文字に関する事項	(ア) 平仮名及び片仮名を読み、書くことまた、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと (イ) 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと (ウ) 第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されている漢字を読むことまた、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと	(ア) 第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと (イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことまた、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと (ウ) 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと	(ア) 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことまた、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと (イ) 仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること